

令和3年度 第1回野々市市上下水道事業経営審議会 会議録概要

◆日時 令和3年8月31日（火）午後2時から午後4時

◆場所 野々市市役所庁舎2階201会議室

◆出席者

栗市長（委嘱、挨拶）

委員8名

藤田会長、澤村副会長、東委員、田中委員、西田委員、北村委員

岡田委員、前田委員

事務局5名

中藪土木部長、鶴見上下水道課長、北課長補佐、鶴来課長補佐、小杉係長

◆会議経過

開会	
委員紹介	委嘱状は、会議資料と併せて各委員の席上に配付（コロナ対策） 事務局から各委員の紹介
あいさつ	栗市長よりあいさつ（委嘱後退席）
会長、副会長の選出	会長に藤田雅顯氏、副会長に澤村昭子氏を選出する事務局案を提示 全員異議なし
審議	事務局より資料に基づいて説明 主な質疑応答は以下のとおり  (委員) 使用者は、2か月に一度納めることになるので、1回あたりの増加額が資料にある増加額の2倍ということになる。あまり大きな改定率にすると負担に感じる。徐々に上げていく方がいいのではないかと。 (事務局) 例えば、一度に30%上げるのではなく、毎年10%ずつ上げて3年後に30%程度にしていくという方法も可能である。  (委員) 基本料金と超過料金の率を変えることは可能か。例えば、基本料金を12%で超過料金を27%にした場合の試算は。 (事務局) 率を変えるという考え方も可能であるが、今回は基本料金と超過料金の率を一律にした形で提示した。前回は一律16%の引き上げにさせていただいている。質問の試算結果については、次回お示ししたい。

(委員)

野々市市は住みよさランキングで上位にいる。学校が多いとか病院が整っているとかいろいろあると思うが、公共料金とか公共施設の料金が必ず出てくる。最低限、五年後ぐらいに黒字化になるぐらいの水準にはすべきなのかなと思いつつも、市が目指すブラディングとの兼ね合いの中で、いい落としどころを見つけていただきたい。

(事務局)

住みよさランキングの中で公共料金の項目はある。現行の下水道使用料は安い方から数えて県内で上位にいるが、改定すると中位もしくは下位に推移することになる。水道料金は県内で1番か2番目に安い。料金の見直しについては、本来なら3年から5年のスパンで行う必要があるが、下水道使用料は前回の見直しから10年経過している。今後は3年から5年で改定の検討を行っていきたいと考えている。

(委員)

県内の他市町の状況はどうなっているのか。

(事務局)

能登地方の市町で改定を検討しているという話を聞いている。

(委員)

公営企業法で言えば最初に説明があったように当然27%にもっていかないといけない。料金改定のサイクルで言っても、介護保険は3年ごとに行っている。10年も見直さないというのは考えられないし、企業会計であればもう少し短いサイクルで見ないといけない。経営が破綻すると一気にそれが住民の負担となって出てくるということを頭に置いておく必要がある。本来あるべき改定率はどこだろう、ということをやっと見ていかないと後々禍根を残すことになるので、十分シミュレーションしたうえでやるべきだと思う。

(事務局)

民間の企業で言えば、収益を黒字にしていかなければならない。累積欠損が増えていくことはあってはならない、ということは重々承知している。しかしながら、3割近くの引き上げになると市民にとってかなりの負担になる。当面は、事業運営に最低限必要な資金を確保しながら、その後3年から5年の間に今後の収支状況等を見ながら料金改定について検討していきたいと考えている。

	<p>(委員) 10年間放置していたから、急に30%くらい引き上げなければいけないことになってしまう。住みよさランキングは市にとって大切な宝だと思うが、30%上げたらそれが一気になくなる。段階的に上げていくなど、ショックの少ないような配慮をしていかないと、住民の皆さん方にとって厳しい。また、収入を増やすだけでなく、例えば下水処理場の経費を削減するという道は全くないのか。</p> <p>(事務局) 市民にとって急激な負担増とならないよう、十分な検討が必要と考えている。下水処理場については、経費の削減のために維持管理業務を民間企業へアウトソーシングしている。施設の老朽化対策についても計画的な更新を行うことにより、年度単位の事業費の平準化を行っている。</p> <p>(委員) 使用料を上げる時期を延ばすと、財政はもたないのか。</p> <p>(事務局) 令和3年度から、一般会計から赤字補てんの補助を受けられなくなり、このままでは令和5年から6年にかけて資金残高がゼロを下回ることになる。そのため、本審議会において使用料改定について審議いただくことになった。</p> <p>(会長) 住みよさランキング等で非常に高評価をしてもらっているが、良い所に住もうと思えば、いろんな意味でそれなりの価値があるということも理解してもらった方がよいと思う。このまま赤字を抱えて私たちの孫の世代に渡すわけにはいかない。今回よいタイミングだったので、1度しっかりしたものを考えていけばよい。</p> <p>(事務局) 委員の皆様方からの貴重な意見をもとに、次回の審議会に向けて検討していきたい。</p>
閉会	次回審議会は11月14日（木）午後2時より行う。